たまネイチャーポジティブフォーラム　2026.11.7

多摩市の生きものとネイチャーポジティブ

13万8千件の市民の記録から

渡辺 仁　NPO東京生物多様性センター 代表理事
多摩市生きもの調査隊事務局

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

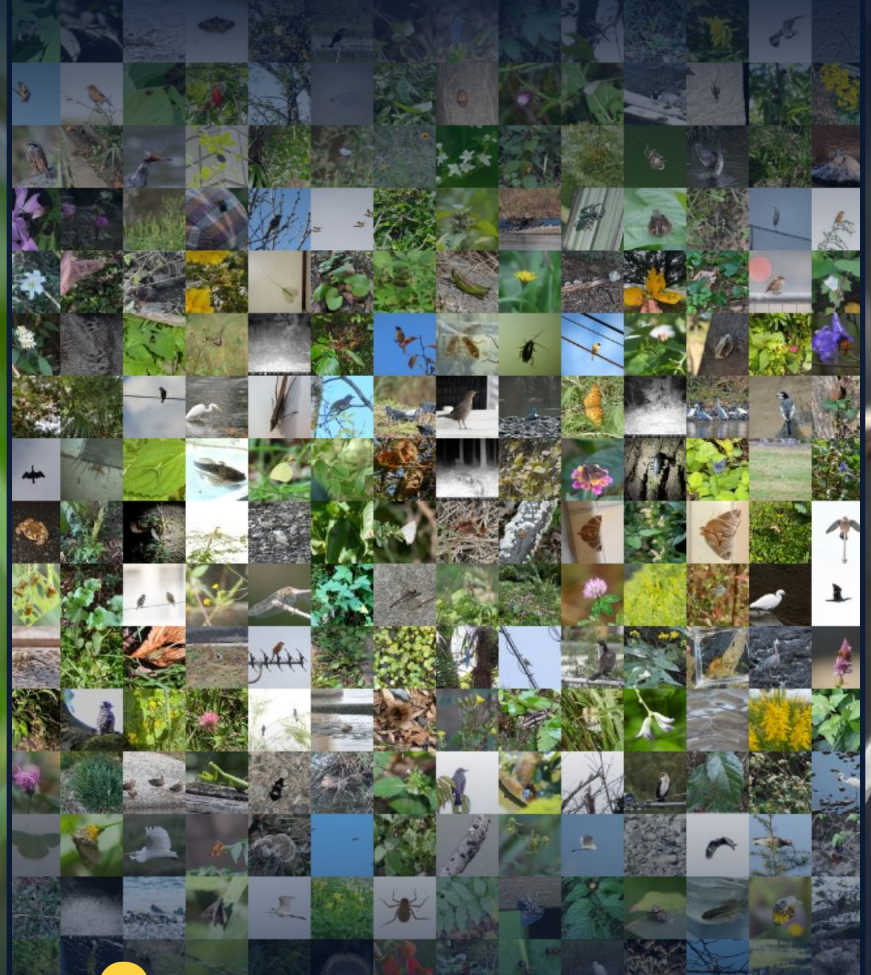


カワセミ　撮影：m_sato（多摩市生きもの調査隊）

今日お話しすること



1
ネイチャーポジティブって何？



2
多摩市の生きもの、いま



3
多摩市の自然を増やすために

ノアザミ・タマノホシザクラ　撮影：tbc_watanabe　中央：多摩市生きもの調査隊の投稿写真

ネイチャーポジティブ（Nature Positive）を直訳すると

自然を、プラスに。

プラス＝自然を増やす・よくする・問題を減らす



2020年　基準の年　　2030年　2020年より豊かに　　2050年　完全に回復

図：環境省　定義：Nature Positive Initiative、Locke et al.（2021）

なぜ今、必要なのか

100万種
絶滅の危機にある動植物
IPBES（2019）

73%減
野生動物の個体数（50年間の平均）
WWF 生きている地球レポート2024

44兆 ドル
自然に頼る経済活動
世界のGDPの半分以上
世界経済フォーラム（2020）

原因は **開発・乱獲・気候変動・汚染・外来種**。
多摩市の記録にも表れている



多摩市でも
トウキョウダルマガエルが
消えかけている

トウキョウダルマガエル　撮影：tbc_watanabe

なぜ、あえてカタカナ語なのか

「自然保護」の言い換えではない

- ✓ 守るだけでなく「増やす」、それを確かめる
- ✓ 世界・国・企業・自治体と同じ言葉で話せる
- ✓ 定着した訳語は、まだない

> カーボンと違い、その場所の自然は他では代えられない



ウラナミアカシジミ　撮影：tbc_watanabe

世界の約束を、多摩市に届ける

Convention on Biological Diversity

Kunming - Montreal GLOBAL BIODIVERSITY FRAMEWORK

30by30

環境省 Ministry of the Environment

1992

生物多様性条約

196の国と地域が参加

2022

世界目標（GBF）

ネイチャーポジティブと30by30を掲げる

2023

自然共生サイト

2026年 全国700か所に

2025

地域生物多様性増進法

自然を「増やす」法律

次は、多摩市。2030年まで、あと4年

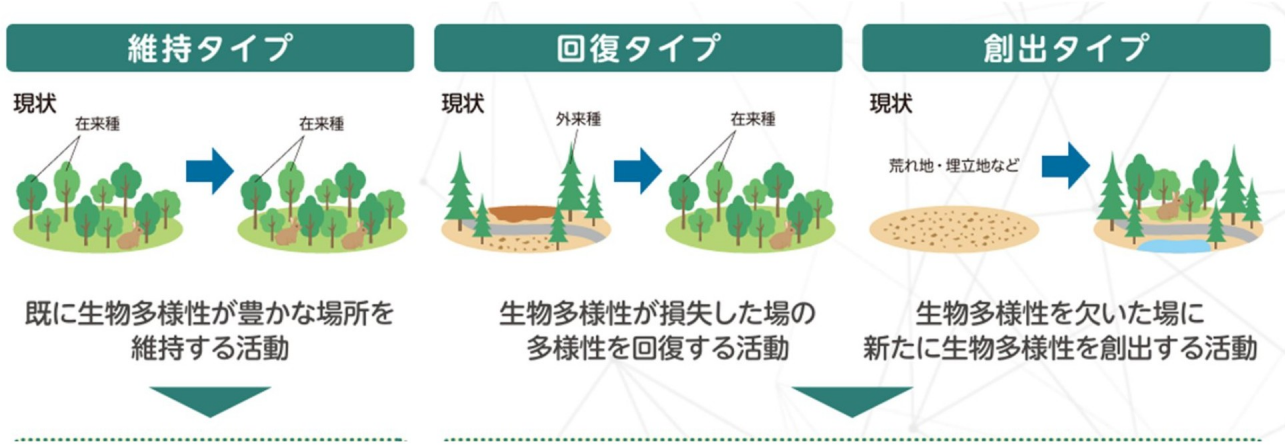
ロゴ：生物多様性条約事務局、環境省　出典：環境省（自然共生サイトは2026年10月30日発表）

ネイチャーポジティブを進める法律　2025年 地域生物多様性増進法

環境省
Ministry of the Environment

保全 → 増進

＝自然を
維持し、回復し、創出する



認定されると「自然共生サイト」＝ネイチャーポジティブの現場。条件はモニタリング

出典：環境省「地域生物多様性増進法の概要」

なぜ日本では、自然を増やしにくいのか

これまで

マイナスを小さくするだけ

開発に求められたのは「実行可能な範囲内での回避・低減」。オフセットは「免罪符」と批判された

これから

自然を増やす仕組みへ

自然共生サイトなどで、回復・創出を社会に実装する

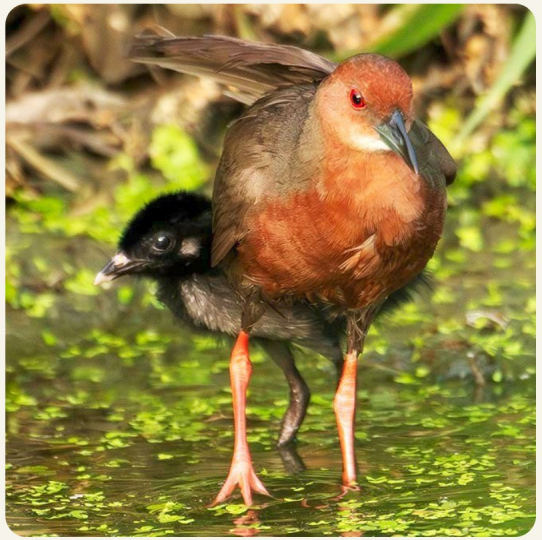
左：桜ヶ丘公園から見た市街地　右：一度消えて復活したツマグロキチョウ　撮影：m_sato

多摩市のネイチャーポジティブを確かめる、4つのものさし



すみかが増える

雑木林・草地・水辺の指標種



絶滅危惧種が回復する

ヒクイナの繁殖、ツマグロキチョウの復活



外来種が減る

特定外来生物の記録数



気候の影響が減る

北上する南の生きもの

撮影：tbc_watanabe、m_sato（多摩市生きもの調査隊）

多摩市の現在地

50%
緑地率
公園緑地を含む

34%
保護区の割合
ただし大半は市街地

2カ所
市の公園緑地の
自然共生サイト（全国700カ所・都内48カ所）

市内の認定は企業の2か所のみ
株式会社グリーン・ワイズ 本社事業所
長谷工テクニカルセンター（株式会社 長谷工コーポレーション）
市の公園緑地の認定はまだない

数字の上では足りているように見えても、**中身はこれから。**

桜ヶ丘公園の草地　出典：環境省関東地方環境事務所



2. 多摩市の生きもの

お手元の冊子を開いてください

冊子は2025年末までの記録
（100,363件・2,065種）

スライドの数字は、冊子より新しい2026年10月末のものです



多摩市生きもの調査隊

撮って、投稿するだけ

1 散歩や通勤の途中に、スマホで

2 AIと世界中の人が同定する

3 同定された記録は**市の公式記録**に

2024年4月結成　小学生からシニアまで

使うアプリ iNaturalist

シュンランを記録　撮影：tbc watanabe

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center



撮影：多摩市生きもの調査隊の隊員29人（研究用グレードの記録から）

市民が集めた記録（2026年10月30日）

138,085件

冊子の発行時（2025年末）は100,363件。10か月で約3万8千件増えた

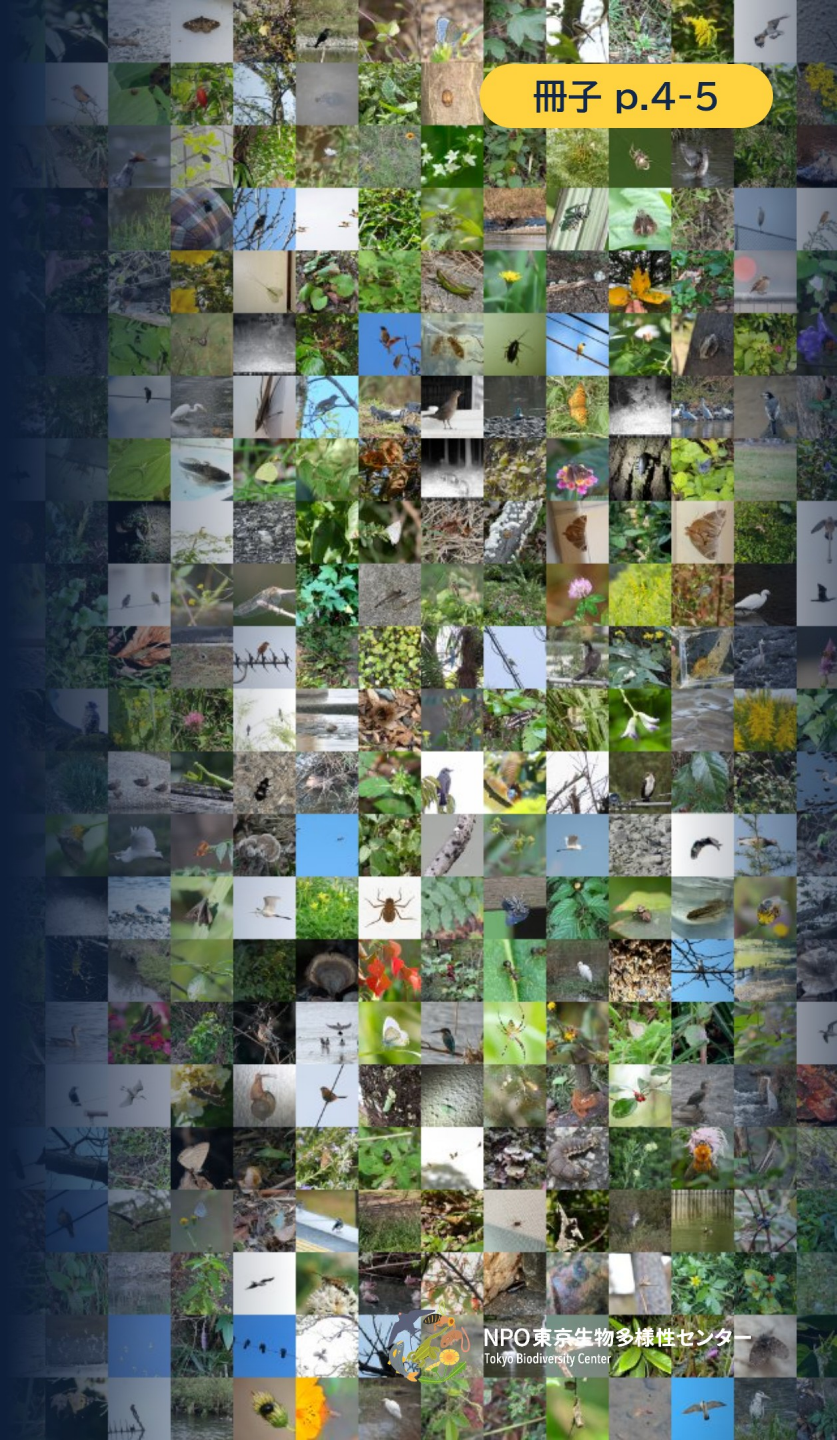
2,288種
研究用グレードの種数

253人
記録した隊員

3,008人
同定した世界中の人

4倍
結成した2024年、
記録が前年の4倍に

冊子 p.4-5



出典：iNaturalist「多摩市生きもの調査隊」。種数は研究用グレード

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center



鳥類 149種･両生類 10種

ほぼ出そろった



昆虫 947種･植物 866種
菌類 148種･クモ 79種

まだほんの一部

カワセミ 撮影:m_sato　ウラナミアカシジミ 撮影:tbc_watanabe　種数は研究用グレード(2026年10月30日、クモは11月6日)

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

冊子の発行後、新たに

220種以上

が記録された（2026年）



鳥

サンコウチョウ、ミゾゴイ、ヨシゴイ



カエル・魚

ドンコ、クロダハゼ



虫

マイマイカブリ、ヤママユ、ツノトンボ



外来の新顔も

カオグロガビチョウ、タイワンタケクマバチ、
ムシャクロツバメシジミ

2026年の記録で初めて研究用グレードになった種（iNaturalist） 撮影：m_sato、mami_t_t

隊員募集中

あなたも、調査隊に。

- ✓ スマホひとつ、小学生からシニアまで
- ✓ 名前がわからなくても、世界中の人が同定
- ✓ あなたの1枚が、多摩市の公式記録に

記録する人が増えるほど、**多摩市の自然の変化が見えてくる**

多摩市公式ホームページ

多摩市生きもの調査隊
参加方法・投稿マニュアル

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

QR：多摩市公式ホームページ「多摩市生きもの調査隊」

冊子 p.8

ホットスポット①

雑木林

人の手入れが、
里山の生きものを支える

アオゲラ 143件　太い木が残る森の証
カブトムシ 82件　落ち葉と朽ち木の森
ヤマユリ 42件　下草刈りで明るい林床



オオタカ　撮影：m sato　記録数は研究用グレード

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center



ホットスポット②

草地

適切に草刈りされた草地でしか
生きられない生きもの

ショウリョウバッタモドキ 85件

ウマノスズクサ 22件　ジャコウアゲハの食草

放置してやぶになると、姿を消す

19　ヤブツルアズキ　撮影:m_sato

冊子 p.10

ホットスポット③

川

東京湾からアユが、
大栗川までのぼってくる

カワセミ 824件　大栗川では身近な鳥

カワラナデシコ 35件　増水が育てる河原

三面張りの乞田川は、生きものが少ない



アユ　撮影：m_sato　記録数は研究用グレード

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

冊子 p.11

ホットスポット④

水田・池・湿地

失われつつある、
水のたまり場

トウキョウダルマガエル　一ノ宮水田にわずかに

ホトケドジョウ　湧水の谷戸に生き残る

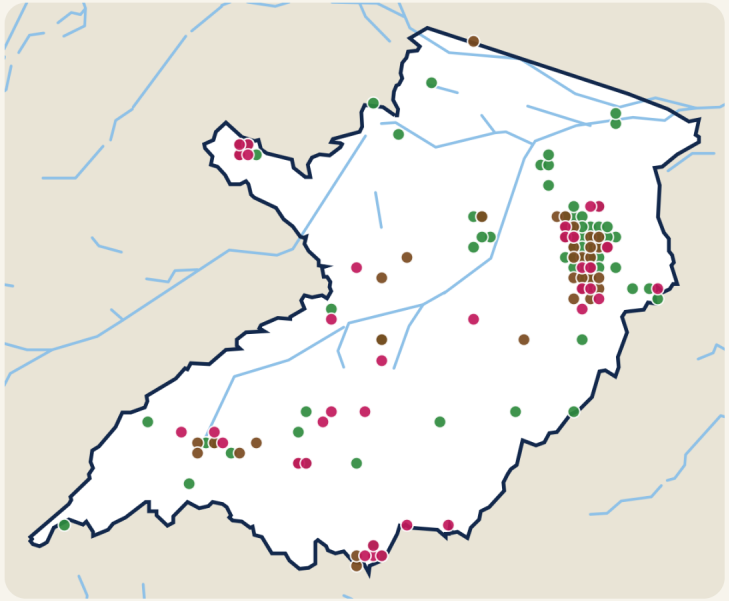
湧水が枯れ、水辺は減る一方

豊ヶ丘南公園の池

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

市内の分布

どこにいる？　すみかごとに分かれる

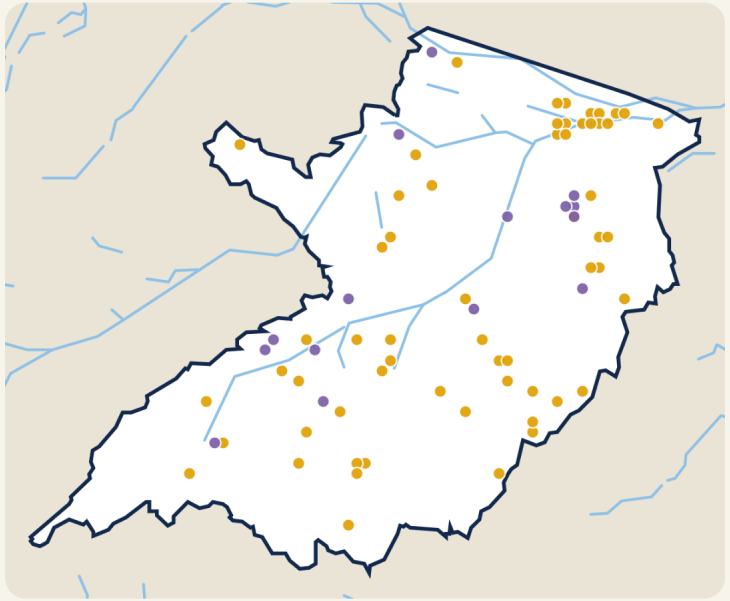


雑木林

アオゲラ75地点

カブトムシ41地点

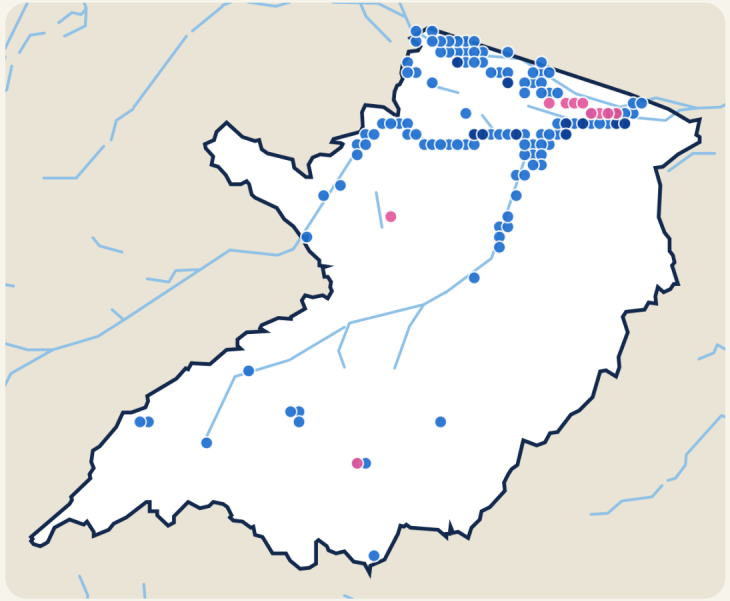
ヤマユリ35地点



草地

ショウリョウバッタモドキ59地点

ウマノスズクサ15地点



多摩川・大栗川・乞田川

カワセミ115地点

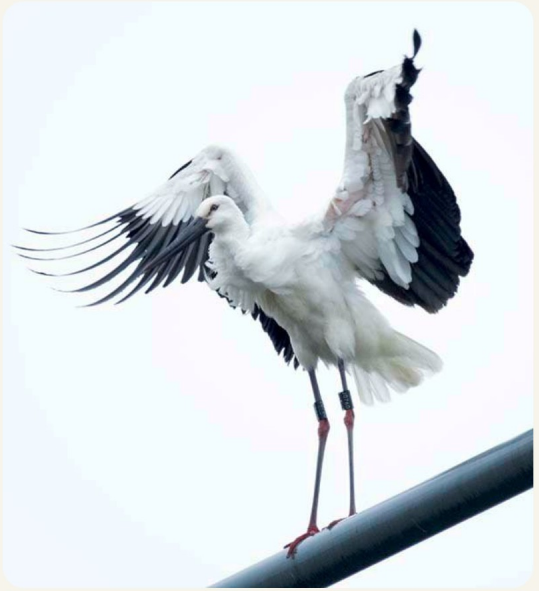
アユ12地点

カワラナデシコ10地点

出典：iNaturalist（2026年10月30日時点、位置非公開の記録を除く）、国土地理院　1地点＝約100m四方

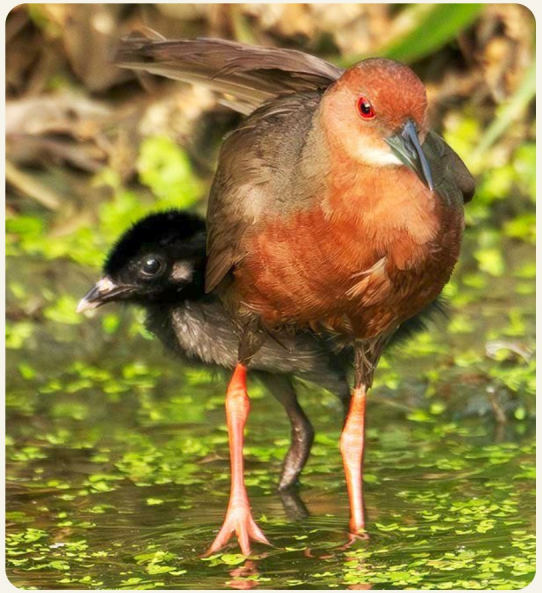
冊子 p.12-13

守りたい、この街の宝もの



コウノトリ

2024年11月、関戸公園に飛来



ヒクイナ

2025年、多摩地方で初めて繁殖



ツマグロキチョウ

一度消えたが、食草が増えて復活



ヘビが見つからない

記録は約3,500件に1件
わずか0.03%

撮影：m_sato（コウノトリ・ヒクイナ・ツマグロキチョウ） コウノトリ・ヒクイナ・ツマグロキチョウは都レッドリスト（南多摩）CR

冊子 p.14-15

外来種

減るどころか、増えている

記録1,000件あたりのアライグマ

1.9件 → 2.9件

2024年 → 2026年（調査量の差をならした値）

ガビチョウ、オオキンケイギクも割合が増加

特定外来生物 15種が市内に



アライグマ　撮影：m_sato

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

市内で記録された特定外来生物

15種すべて、市民の記録から



ガビチョウ 507件

鳥類



アカミミガメ 474件

爬虫類 条件付



アライグマ 260件

哺乳類



オオキンケイギク 212件

植物



アレチウリ 210件

植物



アカボシゴマダラ 135件

昆虫



オオカワヂシャ 65件

植物



アメリカザリガニ 36件

甲殻類 条件付



オオフサモ 28件

植物



ソウシチョウ 14件

鳥類



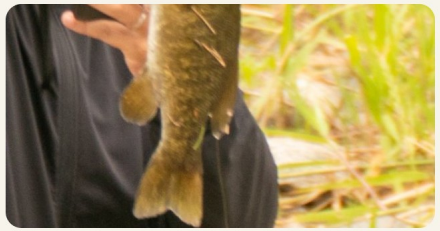
ウシガエル 13件

両生類



ハイイロゴケグモ 13件

クモ



コクチバス 4件

魚類



カオグロガビチョウ 3件

鳥類 2026年 初記録



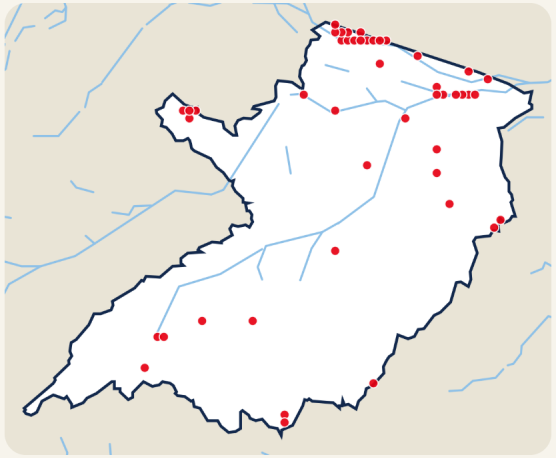
オオクチバス 1件

魚類

報告件数は多摩市生きもの調査隊の全記録(2026年11月6日時点)。条件付＝条件付特定外来生物　撮影:jernoe、naturalist49784、m_sato、tbc_watanabe、shyakosan、tamagreattit、river3mushi、mami_t_t

外来種の分布

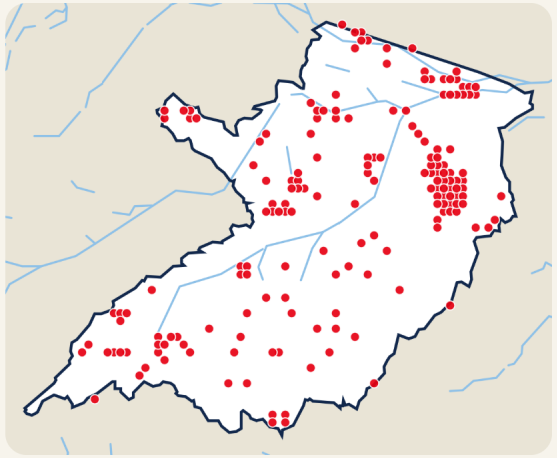
外来種は、もう市内全域に



アライグマ

哺乳類

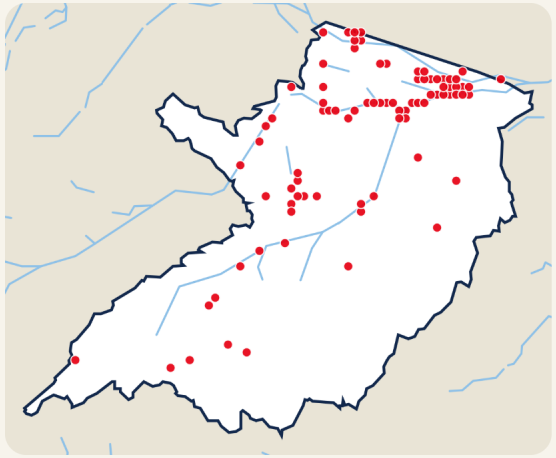
記録地点 46か所



ガビチョウ

鳥類

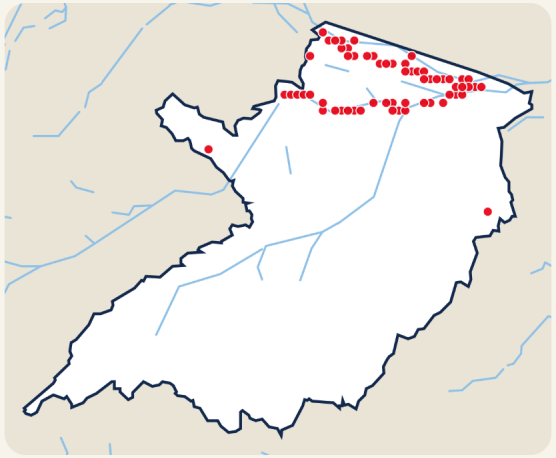
記録地点 173か所



オオキンケイギク

植物

記録地点 83か所



アレチウリ

植物

記録地点 60か所

4種とも特定外来生物。見つけたら記録を、それが駆除の地図になる

出典：iNaturalist（2026年10月30日時点、位置非公開の記録を除く）、国土地理院　記録地点は約100m四方ごとに集計

増える野生動物

イノシシとシカが、もう市内に

21件
シカの記録（2023年～）

4件
イノシシの記録（2024年～）

人に危険　危害のおそれ、出会い頭のけが、交通事故

植物の食害　下草や若木が食べられ裸地化する

掘り返し　草地や湿地が荒れ、希少な植物が消える

> ハンターがいなくなった今、生態系のバランスは簡単に壊れる。分布域が拡大しているので広域の管理が必要。

記録数：多摩市生きもの調査隊（2026年11月6日時点）　撮影：イノシシ tbc_watanabe、シカ m_sato（いずれもカメラトラップ）



イノシシ（多摩市連光寺・2024年12月）



ニホンジカのオス（多摩市一ノ宮の多摩川河川敷・2026年10月）

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

気候変動

南の生きものが、多摩市まで来た

1990年代～　ツマグロヒョウモン、ヨコヅナサシガメ

2000年頃～　クロコノマチョウ、ナガサキアゲハ

2024年　タイワンウチワヤンマ、クロマダラソテツシジミが市内初記録



ナガサキアゲハ（2026年10月 桜ヶ丘公園） 撮影：tbc_watanabe

3. 多摩市の自然を増やすために

なぜ、多摩市は乾いてしまったのか

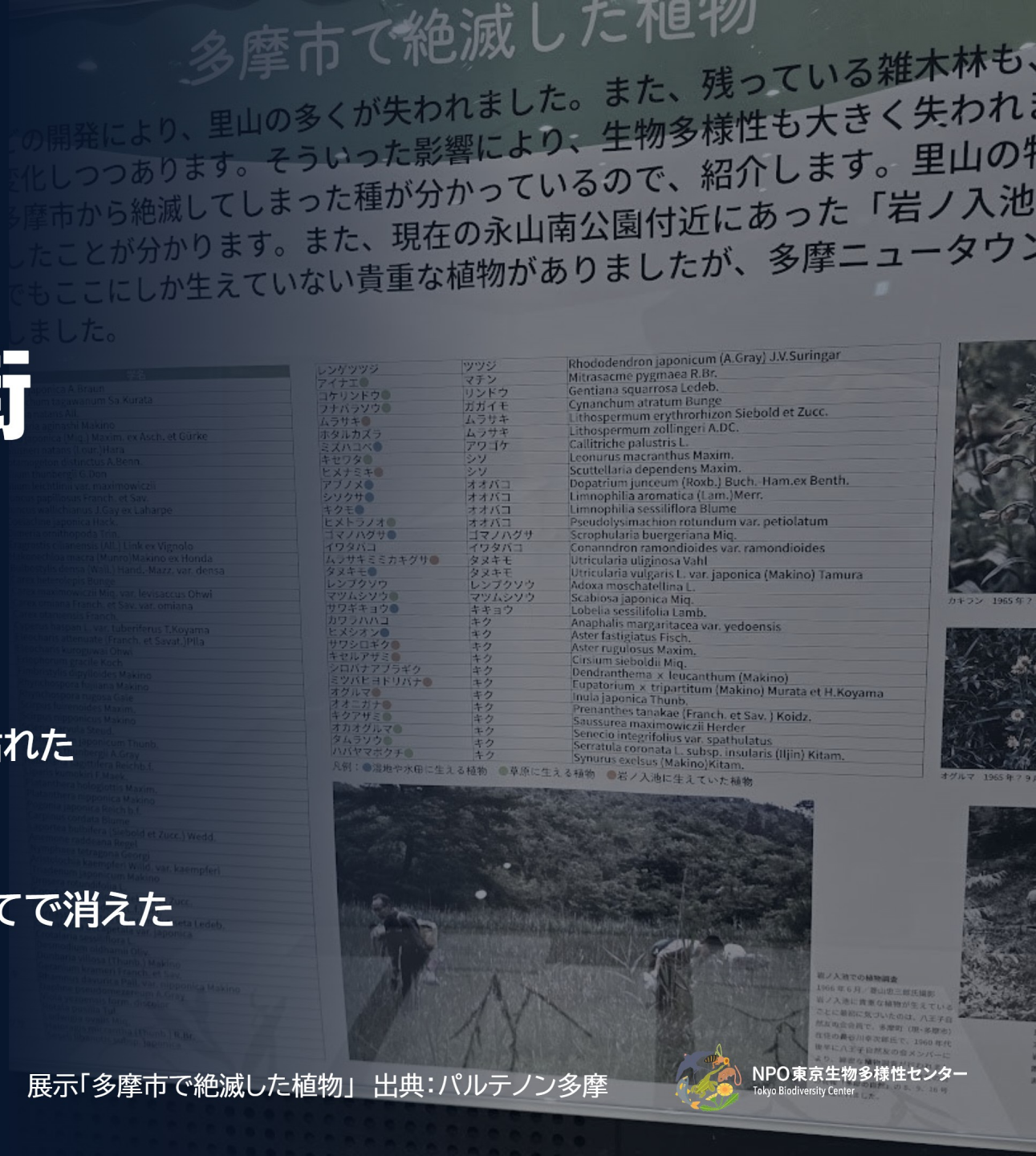
降った雨が、そのまま流れ出す街

1971年　多摩ニュータウン入居開始

環境アセスも情報公開もない時代の、
初期の大規模開発

調節池すらなく、コンクリート三面張の排水路、湧水が枯れた

> 天然記念物級の湿地「岩ノ入池」の植物は、埋め立てで消えた



展示「多摩市で絶滅した植物」 出典：パルテノン多摩

NPO東京生物多様性センター
Tokyo Biodiversity Center

危機

外来種の蔓延

シカやイノシシなどの野生動物の増加

市内絶滅が時間の問題の種

乾燥化と水辺の減少

手入れが追いつかない里山

生産緑地の解除と開発

強み

市民によるモニタリング体制

2,288種という豊かさ

桜ヶ丘公園と多摩川という供給源

緑地率50%

独特のグリーンボランティア制度

アライグマ 撮影:m_sato

冊子 p.18-19

提案

多摩市のネイチャーポジティブに向けて

自然の力で、防災や暮らしの課題も解く＝NbS（自然を基盤とした解決策）



雑木林の管理を変える

なな山緑地にフクロウの巣箱。鶴牧西公園・原峰公園などでも生きものに配慮した手入れ



水辺をつくる

遊水地をビオトープに。治水にも役立つグリーンインフラ



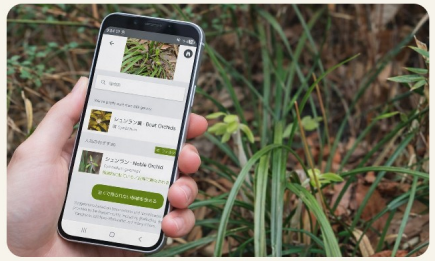
失われた植物を戻す

永山南公園・岩ノ入池の埋土種子から復活させる



外来種と野生動物管理

アライグマの捕獲、シカ・イノシシへの早めの備え



次の世代へつなぐ

調査隊の記録と体験を環境教育に

5つの道を、3つの仕組みで進める

1連絡会をつくる

市民・専門家・企業・市がつながり、めざす姿と進み具合を共有

2自然共生サイトを増やす

市の多くの公園緑地を国の認定へ

3ネイチャーポジティブ宣言へ

2030年に向けた目標を掲げる
様々なネイチャーポジティブを目指した活動

撮影：tbc_watanabe　展示：パルテノン多摩

小さな発見から、ネイチャーポジティブが動き出す

見つけた生きものを、スマホで記録する。
それが、多摩市の自然を増やす第一歩。
市の活動にも参加しよう

多摩市生きもの調査隊　隊員募集中（冊子 裏表紙のQR）

多摩丘陵固有のタマノホシザクラ　撮影：tbc_watanabe